



学校だより

～学校評価特集号～

令和2年度 第3号
令和3年3月11日発行
香川県立聾学校

今回の学校だよりは、今年度の学校評価アンケートの集計結果について報告します。
アンケートへのご協力ありがとうございました。

各部の評価

	目標(課題)	取組と結果	次年度の課題・改善策
幼稚園部	コミュニケーションの基礎の力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○実態を把握し個に応じた手段を用い、生活全般において子供の思いに共感しつつ表現の見本を示した。楽しくやりとりができるようオノマトペ等も取り入れた。 ○それぞれにやりとりができることが多くなり、理解表現できる言葉が増え、気持ちの表現もできるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の実態に応じたコミュニケーション支援を行う。 ・活動を振り返ったり、楽しかった活動を通してやりとりをしたりできる視覚情報や掲示物について、幼児の実態を踏まえて、工夫をする。 ・相談会や学習会、交流会等、保護者にとって有意義な会となるよう検討し実施する。
	保育活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○五感を取り入れた活動や行事を行い、活動の際には子どもの気持ちに寄り添うように心がけ、活動後は写真や作品等を掲示した。 ○興味や関心を示す物が増え、それぞれに笑顔で活動に参加できるようになった。掲示物を見て何度も活動を振り返って楽しかったことを表現したりやりとりしたりするなど、活動の工夫がコミュニケーションにもつながっていった。 	
	教員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン研修に全員が参加でき、一緒に学べ、意見交換もでき、有意義な研修となった。 	

	目標(課題)	取組と結果	次年度の課題・改善策
小学部	言語活動の充実とコミュニケーションの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○児童同士で相談、話し合う機会を設定した。子ども同士の意識も育ち、コミュニケーションの拡充につながっている。 ○児童の作品や学習の成果を積極的に廊下に掲示することで、教員や他の児童と交流するすきっかけを設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実とコミュニケーションの拡充を目指す。個に応じた取り組みを行う。 ・日本語文法指導を継続して取り組む。 ・小学部段階でのキャリア教育の理解と推進のため教員の研修を行い、進路指導部との連携を密にする。
	日本語文法指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○部内の研修等で情報交換を行ったり、他のグループの学習状況を参観したりすることにより、情報の共有や指導法の継承という意味でも研修を深めることができた。 	
	進路学習の在り方とその実施	<ul style="list-style-type: none"> ○中学部への体験入学や高等部の進路学習報告会に参加することができた。 ○進級や進学についての情報提供や相談を、必要に応じて行っていく必要を感じた。 	

	目標(課題)	取組と結果	次年度の課題・改善策
中学部	学力の向上(生徒一人一人の実態に応じた学力の向上)	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業、討議などを通して、授業改善教材の工夫等について話し合いをもち、授業に活かした。各教科間での情報共有が課題に挙げられた。 ○それぞれの生徒の実態に合った指導方法が工夫され、見てわかる授業を実践し、学力の向上につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の実態をしっかりと把握し、生徒に分かりやすい学習指導方法を工夫改善し、学力を伸ばす。 ・それぞれに合った方法で、相手に分かりやすく伝える力、情報をつかむ力をつける。 ・体験的な学習を通して、生徒が自ら考え動く力をつける。 ・進路指導部との連携を密にし、保護者へ進路に関する適切な情報提供を行うとともに、将来の進路に対する関心を高める。 ・保護者との協力や連携を図りながら、生徒個々に応じた支援等について情報共有する。
	コミュニケーション能力の向上(読話指導、語彙の拡充)	<ul style="list-style-type: none"> ○帰りの会の前の時間を使っての言葉の学習や外部の方とのコミュニケーションをとる機会を設けることで、伝えようとする姿勢が向上した。 ○伝わらない理解できない場合の対応について、自分で対処する姿も見られた。 	
	生きる力・自立の力の育成(職場体験学習、交流及び共同学習)	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習を通して、自分の目標を掲げ、実際の場で意識的に取り組むことができた。それぞれの生徒が成果及び今後の課題を得ることができた。 ○様々な職業について事前学習で学ぶとともに実際の仕事を体験することで、仕事の大変さ、楽しさを学ぶことができた。 	

	目標(課題)	取組と結果	次年度の課題・改善策
高等部	一人一人に応じた学習内容を設定し、進路目標の実現を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が希望する進路を実現するために、現場実習やオンラインによる大学説明会への参加などの取組を行い、3年生全員の進路を決定することができた。 ○授業だけでなく、学校生活全般にわたり、一人一人に合わせたさまざまな取組を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の進路目標の実現を図るために、今まで以上に、個に応じた学習内容や指導方法を検討する。 ・引き続き、コミュニケーション力の向上のために、高等部全体で取組を行う。次年度は、コミュニケーション力を活かす取組を進めていく。 ・一人一人が主役となれるような生徒会活動、部活動などを計画する。 ・保護者への情報発信の仕方を工夫する。
	活発なコミュニケーションの場を設け、望ましい対人関係の構築を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○高等部の職員全員が共通理解をした上で指導を行った。 ○校内外でさまざまな機会を設け、積極的にコミュニケーションが行えるように工夫した。 ○相手に合わせたコミュニケーション手段を選べるようになりつつあるなど、成果が上がってきているが、まだまだ課題があると感じる。 	
	部活動等による自主的な活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナの影響で大会の中止が相次ぎ、一人一人が主役となるような活躍の場がほとんどなかった。 ○保護者から、予定表の配布時期について等のご意見があった。また、情報発信不足が課題として上げられた。 	

